

令和5年9月29日配信



SPORTS
FUTURE
CENTER
URESHINO

世界初！「北欧式対話モデル×スポーツ」 持続可能なまちへ「シン・嬉野」始動

西九州新幹線開業から1年が経ちました。2024年には国スポ全障スポを控える今、嬉野市は、北欧式対話モデル「フューチャーセンター」に「スポーツ」の持つ「つなぐ」力を掛け合わせた世界初の取り組み「スポーツフューチャーセンター」を始めます。農業や観光など様々な関係者をスポーツでつなぎ、未来志向の対話を生み出します。共創で持続可能なまち「シン・嬉野」へ向け始動します。

スポーツフューチャーセンターうれしの 第1回セッション

日時：2023年10月30日(月) 15:00～
場所：嬉野温泉駅前 観光交流施設「まるくアイズ」
テーマ：「アスリートと考えともに動き出す 農業×観光」

※詳細は追ってプレスリリースします

※フューチャーセンターとは…スウェーデン発祥で世界はもとより日本でも広がりを見せている取り組みで、異なった組織や立場の人々がその組織や立場を離れ、自由に関係性を形成し、未来志向で創造的な対話をおこなう「場」のことを言う。「フューチャーセンター」が「場」をあらわすのに対し、対話の過程及びその内容は「フューチャーセッション」と呼ぶ。スポーツの力を掛け合わせる「スポーツフューチャーセンター」は世界初の取り組み。

なぜいま変化が必要なのか

念願の新幹線開業から1年が経過し、社会はポストコロナ時代を迎えました。新幹線があることが日常になっていく中で、観光客にとっても、まちに住む人たちにとっても、新たな価値観でのまちづくりが必要となってきています。

しかし足元を見ると、コロナの打撃による観光産業の人材不足や若年女性の転出超過・少子化による減少などいくつもの問題が転がっています。未来を誰かに託すのではなく、この街に住む私たちだからこそスクラムを組んで持続可能なまちに変えていかなければいけません。

世界初となる北欧式対話モデルとスポーツのかけ算

そこで私たちは北欧式の対話モデル「フューチャーセンター」に注目しました。北欧は少ない人口で大国とどうわたりあっていくかなどの課題を抱えていて、市民が未来志向の対話をして知恵を生み出す仕組みを作ってきました。これは日本のローカルでも参考になるのではと考えました。

同時に、スポーツの力にも注目しました。2024年、国民体育大会は国民スポーツ大会に変わります。「スポーツ」は競技する・見るだけのものから、社会課題を解決する手段としても捉えられるようになってきています。

この北欧式対話モデルと、スポーツの持つ人や組織、物事を「つなぐ」力、多くの人ができることができる「伝える力」を掛け合わせることで、私たちは嬉野市の未来を皆が気軽に語ることができる場をつくり出します。この「スポーツフューチャーセンター」は、世界で初めての取り組みとなります。

どういふスタイルで対話を生み出すのか？

初回のテーマは、「アスリートと考えともに動き出す 農業×観光」です。地元の農業×観光のフロントランナーだけが語るのではなく、市外の農業にゆかりのあるアスリートが対話に参加することで、地元の方々にも「どんな化学反応がおきるのだろうか？」「何がはじまるのだろうか？」と関心を持ってもらい、地元になたな参画者が生まれることが「スポーツフューチャーセンター」の狙いです。「農業」「観光」などそれぞれ別のジャンルに取り組む人たちを、スポーツの力でつなぎます。



＜フューチャーセンターでの対話イメージ：佐賀新聞社主催のまちづくりを語ろう会の様子から＞

ロゴの説明

丸いかたちは循環する「思い」を現し、futureの「f」で様々なイメージをつなぐという思いをこめています。

4つのパートには次のような思いをこめています。



SPORTS
FUTURE
CENTER
URESHINO

- ・左上の若葉は、**新しいアイデアが次々と伸びていく**イメージ。
- ・右上の二つの山は、嬉野市の中央にある「唐泉山」と「小唐泉」を形どり、**揺るがない思い**をシンボリックに表現しています。
- ・緑のラインは特産の「うれしの茶」の茶畑を表現し様々な人々の**思いが寄り添っている**イメージ
- ・水玉は特産の「肥前吉田焼」をシンボリックに表し、**様々なスポーツの力や多様性**を表現

今後のスケジュール ※予定のため変更となる場合があります。

スポーツフューチャーセンターうれしの 第1回セッション
テーマ「農業×観光」2023/10/30 15:00～@まるくアイズ

スポーツフューチャーセンターうれしの 第2回セッション
テーマ「子育て」2023/11/28 時間未定 @まるくアイズ

スポーツフューチャーセンターうれしの 第3回セッション
テーマ「移住・定住」2024/1/25 時間未定 @まるくアイズ

本事業は、2024年度も継続し語り合いつながりを生むことで、20～39歳までの女性人口の減少率を鈍化させ、同年齢層の女性の人口を社会増とすることを目標としています。

担当者の思いなど「note」にも記事をアップしていきますのでご覧ください。
<https://ureshino-city.note.jp/m/mb791c7037972>

